

活動テーマ

小鹿野町における地域資源を活かした観光ルートの企画

小鹿野町 東洋大学

1 活動目的

過年度の活動における「みちくさマップ」「バス停から1時間の旅」等を通じて、観光ルートの実現と企画に向けた小鹿野町の地域資源の把握とその発信、また、小鹿野高校や小鹿野町消防団の皆様との活動を通じて人的ネットワークの構築を試みてきた。活動4年目にあたる本年度の活動では、潜在的な地域資源の発掘に継続的に取り組みつつ、最終目標に置いた関係人口の増加と地域経済の活性化に資すること活動の目標としたい。

2 活動地域の現状

人口減少下の中山間地域の地域づくりにおいて地域資源の活用と関係人口の増加は喫緊の課題であるが、ここでは、従来型の単眼的ではなく複眼的、すなわち、学際的な視点が求められることは言うまでもない。本活動の対象地・小鹿野町もまた典型的な中山間地域であり、人口・世帯数は共に減少している。一方、ダリアをはじめとする「花」や毘沙門水としても名高い「水」、そして、小鹿野歌舞伎をはじめとする豊かな地域資源に恵まれており、小鹿野高校による尾ノ内百景氷柱の活動支援をはじめとして様々な地域づくり活動が展開している。

申請者らは、国際学部・国際観光学部・理工学部の教員・学生による学際的チームを編成して活動に取り組んできた。過年度の活動を通じて、小鹿野町の地域資源の現況を町内外の視点から把握し、また、小鹿野高校の教員・生徒をはじめとする地元の皆様との協力関係を構築した。本企画はこれらの活動に基づいて準備を進めてきたものである。

3 活動内容

小鹿野町の潜在的な地域資源をめぐる活動では、本年度は「小鹿野町の四季を知る」ことをテーマとした。

これまでで最も多い43名の学生が参加した夏の現地研修（2022年9月20日～22日）では、グループ毎に関心のあるテーマを設定して小鹿野町を訪ね、町の皆様にインタビューや資料提供をいただきながら、山や自然、花、食べ物、祭りなどのテーマ別にみた小鹿野町の四季を「フェノロジーカレンダー」（生活季節暦）に整理した（写真1）。続く冬の現地研修（2023年2月12日～13日）では小鹿野町にて小鹿野高校の生徒・教員と合同でワークショップを実施して、夏のカレンダーに対して町の皆様よりコメントをいただいてフェノロジーカレンダーを完成させる作業に取り組んだ（写真2）。

また、人的ネットワークの構築という点では、小鹿野高校の皆様と継続的な取り組みを行うと共に、小鹿野町役場よりご厚意により、町内で活動する大学を取り組みを紹介するイベント「3大学合同地域交流フェス in 小鹿野町」（2022年10月16日及び11月20日）の場をいただき、町の皆様との交流を深めると共に参加大学（明治大学、立教大学、東洋大学）の間で地域づくりに係る経験を共有した（写真3）。



写真1 夏の研修でのインタビューや現地調査の様子



写真3 3大学合同地域交流フェスの様子

写真2 冬の研修でのワークショップや現地調査の様子

4 成果

本年度の活動を通じて、農作物、眺望、自然を楽しむアクティビティ、祭りや歌舞伎を切り口として小鹿野町の四季を知るフェノロジーカレンダーを作成した。このカレンダーは観光客や移住予定者向けの情報として提供すべく、関係する皆様に働きかけている。

また、小鹿野高校や小鹿野町役場をはじめとする町内の皆様との間に築かれた人的ネットワークを基盤として、冬のワークショップにて小鹿野高校と東洋大学との共同で行う続く地域づくり活動に向けた準備を開始した。

なお、本年度は夏の研修に43名、冬の研修に35名の学生がそれぞれ参加しており、毎年50名が現地で活動するという当初の数値目標は十分に達成した。さらに、本活動から展開して小鹿野町の地域づくりに関する卒業論文を執筆した学生が2名みられたことも成果として付記しておきたい。

5 課題

本年度までの4年間の活動を振り返ると、まず、本活動はそれまでに実績のなかった地域での活動であったことから人脈づくりから始めざるを得なかったが、この点においては小鹿野高校や町役場をはじめとする町内の皆様のご協力に恵まれたと感じている。その一方、活動期間中の2年間はコロナ禍で現地活動を実施できなかったことが重なり、活動全体を見渡すと、小鹿野町を知ることに留まり、地域づくりに向けた具体的なアクションに乏しかった点は大きな課題である。

6 次年度以降の計画

次年度以降は小鹿野高校の総合的探求をはじめとする地域学習の機会等と連携しながら、アクションを重視した地域づくり活動へと展開させてゆくこととしたい。

末筆ながら、ふるさと支援隊としての4年間の活動支援に重ねて御礼申し上げたい。

